

## 中学校 国語科 部会

部会長名 大任中学校 校長 小田 玲子

実践者名 川崎中学校 教諭 田丸 陸子

### 1 研究主題

古典に親しむ態度を育成する第3学年国語科学習指導の研究  
～生徒の学習意欲を高め、課題追求に向かわせる3つの工夫を通して～

### 2 主題設定の理由

#### (1) 国語科の今日的な課題から

本年度より新学習指導要領が施行された。総則では、『基礎的・基本的な知識及び技能を確実に習得させ、これらを活用して課題を解決するために必要な「思考力・判断力・表現力」を養うことが打ち出され、各教科等での言語活動の重視が強調されている。国語科はその基幹教科として位置付けられ、まず国語科で言語を通して創造的・批判的に思考・判断・表現することで、「思考力・判断力・表現力」及び「言語活動を行う力」を養うことが求められている。他教科へ生かすことができるよう、様々な文種の学習材を通してこれらの力を培うような授業づくりをしていくことが国語科の急務である。

また、国語科の内容面では、これまで「言語事項」とされていたものが「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」と名を変え、「伝統的な言語文化」が取り立てて加えられた形になっている。これにより小学校段階からの古典の指導の徹底が図られており、改訂の趣旨にも「古典に一層親しむ態度の育成の重視」が謳われている。また、「古典の日に関する法律」が新たに設けられるなど、社会的にも古典に親しむ態度の育成が求められている。しかし、若者の古典からの乖離は深刻で、本校でも生徒のアンケートで古典を苦手とする生徒が半数を超えている現状がある。

これらのことから、「基礎的・基本的な知識及び技能」と「思考力・判断力・表現力」をともに養うことができる授業を、これまで形式的な学習に偏りがちであった古典学習で追求し、子どもたちに「古典に親しむ態度」を育成していくことが、国語科の大きな課題の一つであると考え本主題を設定した。

#### (2) これまでの指導の反省から

古典指導の課題は、約50年前に当時の文部省から出された「中学校高等学校学習指導法国語科編」にも見ることができ、「従来の古典学習では逐語的に説明を加えたり文法を解説したりしながら現代語訳を作っていくことが古典学習の重要な作業」であり、そのことが「古典学習を難しくし、興味のないものにした原因ともなった」と記されている。現代の中学校国語教師の課題意識アンケートでも「古典の指導は形式化しやすい」「現代語訳や暗唱・音読が中心になりがちで、生徒が苦手意識をもちやすい」等の回答が大変多く、この状況は半世紀以上変わっていないことがうかがえる。

現代文の指導では、読んで意味をとらえる苦労が古典に比べ少ないため、文意を理解した後に「解釈」「熟考・評価」していく授業を組むことが比較的容易である。しかし、古典学習では「言葉の意味理解」の壁が高く、文意をとらえることに労力の大半が使われ、教師の指導も説明・解説等の伝達に偏りがちである。書く活動をさせたとしても、文意理解後の作品や作者への「一次的な感想」、つまり現代文の学習で言えばそこから学習問題をつくるはずの「初読の感想」にとどまっていることが多かった。これでは、子どもは主体的な問題ももたず受け身のままで、ひたすら解説を聞いたり指示に従って作業をしたりするだけだと感じることになり、「古典に親しむ」ど

ころか「古典嫌い」を増やす学習を繰り返していることになりかねない。

そこで、「古典に親しむ」ためには、何よりも子どもが主体的に古典に向き合うようにすること、課題を解決することで達成感を味わうようにすることが大切であり、そのための方法として仮説に挙げる3つの手立てを試みたいと考え、本主題・副主題を設定した。

### 3 主題の意味

(1) 古典に親しむ態度を育成するとは

「親しむ」というのは、一過性で「楽しい」「面白い」と感じるのではなく、継続的に触れたいと思ったり、触れることで成就感を味わっていったりすることである。そうなるためには、古典に触れることで成就感を味わう体験が何より大切で、その体験を積み重ねて正の指向性をもつ経験へと高めてやる必要がある。本研究でねらうような、課題解決により成就感を味わわせる学習を繰り返すことが、古典に親しむ態度を育むことになると思う。

(2) 生徒の学習意欲を高め、課題追求に向かわせる3つの工夫とは

子どもたちにとって、原文そのもので古典の内容価値を感じとることは難しい。現代語訳が終わった後の内容理解は、子どもたちにとっては現代文を通しての内容理解であり、内容価値については「だから何？」ととるに足らないものだと感じる人が多いようである。古典のもつ内容価値をいくら教師が熱弁しても、それは子どもにとっては押しつけになりがちで実感的なものにはなりにくい。音読を繰り返したからと言ってこれが変わるわけではない。よって、古典そのものが持つ内容価値に頼りすぎた、「意味が分かれば・説明すれば・音読を繰り返せば、古典のよさは自然に分かる」方式の「古典を現代語訳すること」や「現代語訳したあと感想を書く」という目的の持たせ方や単元の流し方をするのみでは子どもの意欲にはつながりにくく、成就感を味わうことは難しいと考えられる。古典学習を子どもたちの主体的なものにし、また課題解決の活動を成立させ、成就感を味わわせるようにするためには次のような3つの工夫が必要だと考えた。

まず、導入の段階では、古典の教材を使って解決すべき課題を子どもたちが決めたり選んだりできるように課題づくりの工夫をすること。次に、見通しの段階では、解決のための学習計画をできるだけ子ども主体で立てることができるように工夫をすること。最後に、課題解決の段階では、特にものの見方・考え方についての「解釈」「熟考・評価」が成立しやすくなるように、できるだけ子どもたちの身近な見方・考え方が表れた比較（類比・対比）対象を取り入れ、書く活動で確実に自分の考えを書けるようにしたり、考えを交流する話し合い活動で意見等が創造的にかみ合うようにしたりする工夫を行うことである。これら3つの手立てを用いて主題にせまり、その有効性を検証したい。

### 4 研究の目標

第3学年古典学習において、生徒の意欲化を図る課題づくりの工夫・学習計画づくりの工夫及び、ものの見方・考え方について自分の考えをもたせるための比較する活動の工夫についての有効性を探ることを通して、古典に親しむ態度を育成する学習指導の在り方を究明する。

## 5 研究仮説

第3学年古典の学習において下記の3つの手立てをとれば、生徒に古典に親しむ態度を育成することができるであろう。

- ① アンケート結果を基に、生徒自身が学習課題を考えるようにする。
  - ・アンケート結果「古典の学習で興味があるものベスト」に加え、新たに「こんな学習をやってみたい」と思うものを考えさせるようにし、生徒が自分たちで課題を設定したと思えるように教師が支援しながら、主眼を達成するのにふさわしい課題を学習課題として設定していくようにする。
- ② 設定した学習課題をもとに、生徒が学習計画を立てるようにする。
  - ・設定した学習課題を解決するための単元の学習計画を一人一人の生徒が立てるようにし、教師はそれらをどう組み合わせれば主眼を達成するのにふさわしい単元計画になるのかの見通しを立てる。生徒に計画を話し合わせる時間をとり、生徒が自分たちで計画を立てたと思えるように支援しながら、適切な学習計画を立てられるようにする
- ③ 古典に表れた見方・考え方に対し自分の意見をもてるように、見方・考え方を比較できるような比較対象を用意し、書く活動や交流活動を行うようにする。
  - ・「わたしにとって旅とは」というテーマで、生徒自身に「旅」に対する思いを書かせる。教師が意図的に数点を取り上げ、芭蕉の「旅」に対する思いと比較させる。生徒の身近な現代の感覚と比較することで、昔の人も自分たちと近い感覚をもっていたことなどに気づかせ、確実に自分の考えをもつことができるようにする。それらをグループで発表・交流させることによって、考えを深めたり、成就感を味わわせたりできるようにする。
  - ・今回は「旅に対する見方・考え方」であり、そのような見方・考え方が表れた、「古典同士の比較」「現代の紀行文などとの比較」「生徒自身の見方との比較」などが考えられた。また、比較のタイプは共通点を探る「類比型」、差異点を探る「対比型」が考えられた。まだ、このような学習になれていないという生徒の実態から今回は、「生徒自身の見方との比較」を「類比型」を中心に比較するという設定で試みる。

## 6 研究の計画（授業の計画）

(1) いにしえの心と語らう 夏草「おくのほそ道」から

(2) 単元の目標

- 芭蕉やその作品に関心を持ち、古語を調べたり、歴史的背景や作者の生き方・考え方について考えたりしようとしている。(関心・意欲・態度)
- 文章を読んで古人のものの見方や考え方を知り、それに対する自分の考えを書くことができる。(読むこと)
- 学んだことを整理し、構成を考えて新聞にまとめることができる。(書くこと)
- 歴史的背景や作者の当時の状況などに注意して読み、その世界に親しんでいる。(言語についての知識・理解・技能)

(3) 単元指導計画と評価規準 (全12時間)

次	学習活動	指導上の留意点	観点・主な評価規準
第1次 (2)	これからの学習についての見通しをもとう		
	<p>1. 単元の見通しをもつ。</p> <p>①自分にとって「旅」とは何かを作文する。</p> <p>②「旅」に関するアンケートに答える。</p> <p>③「月日は」(古文)を音読する。</p> <p>④歴史的仮名遣いを現代仮名遣いになおす。</p> <p>⑤単元の学習内容を知り、学習課題と学習計画を考える。</p> <p>⑥「月日は」(現代語訳)を音読する。</p> <p>⑦わからない古語や古文に対する現代語訳をノートに書き出す。</p>	<p>○単元学習の見通しをもたせるために、自分にとって「旅」とは何かを作文させる。また、「旅」に関するアンケートに答えさせる。次に、単元学習の内容を知り、学習プランを立てさせるために、まず、「月日は」のおおまかな内容をとらえさせる。そこで、「月日は」を音読させ、歴史的仮名遣いについて復習させる。その後、現代語訳と交互に音読しながら、大体的内容をとらえさせる。そして、わからない古語や古文を書き出させ、その現代語訳を調べさせる。</p>	<p>関①－わからない古語や古文に対する現代語訳を意欲的に調べようとしている。(ノート)</p> <p><b>※仮説1・2</b></p>
第2次 (3)	現代の人と芭蕉の「旅」に対する思いについて考えよう		
	<p>1. 作品の背景をとらえ、芭蕉の「旅」への思いを考える。</p> <p>①資料をもとに、作品や歴史的背景について調べたことをまとめる。</p> <p>②調べたことを交流し、知識を広げる。</p> <p>③芭蕉の「旅」への思いを、本文の言葉を根拠に記述する。</p> <p>④記述したことを交流し、考えを広げる。</p>	<p>○作品や歴史的背景をとらえさせるために、資料をもとに調べたことをまとめさせる。その後、知識を広げさせるために、調べたことを交流させる。</p> <p>○芭蕉の「旅」への思いを考えさせるために、本文の言葉を根拠に考えたことを記述させる。その後、自分の考えを広げさせるために、交流させる。</p>	<p>関②－資料をもとに、作品や歴史的背景について調べたことをまとめようとしている。(ノート)</p> <p>言－歴史的背景などに注意して読むことができる。(ノート)</p>
本時	<p>2. 現代の人と芭蕉の「旅」に対する思いについて考える。</p> <p>①前時に学習した「芭蕉の『旅』への思いと「わたしにとって旅とは」の作文を</p>	<p>○芭蕉の「旅」への思いと現在を生きる私たちとの共通の思いを考えさせるために、「芭蕉の『旅』への思い」をまとめたプリントと「わたしにとって旅とは」の作文を読ませ、比較させる。その後、二つ</p>	<p><b>※仮説3</b></p>

4 / 1 2	<p>読む。</p> <p>②二つを比べてわかったことや考えたことを交流する。</p> <p>③交流後、二つを比べてわかったことや考えたことをノートに記述する。</p>	<p>を比べてわかったことや考えたことを交流させ、わかったことや考えたことをノートに記述させる。</p>	<p>読①—古今に共通する思いについて自分の考えを記述することができる。(ノート)</p>
	<p>3. 「草の戸も」に詠まれた芭蕉の気持ちについて考える。</p> <p>①既習の「俳句の読み解きスキル」を使って、「草の戸も」を解釈し、交流する。</p>	<p>○旅立ちのときの芭蕉の気持ちを考えさせるために、既習の「俳句の読み解きスキル」を使って、「草の戸も」を解釈させ、交流させる。</p>	
第3 ・ 4 次	<p>第3次(2) 「三代の栄耀」のあらすじをとらえよう</p>		
	<p>第4次(2) 芭蕉が高館や光堂で何を見、感じたのかを考えよう</p>		
第5 次 (3)	<p>学んだことを新聞にまとめよう</p>		
<p>1. どのような新聞にするか、完成型をイメージする。</p> <p>①学んだことの中から、新聞に書く項目を決める。</p> <p>②全体で交流し、自分が書く項目を整理する。そして、構成を考える。</p> <p>2. 下書きを書く。</p> <p>①下書きを書く。</p> <p>②班で下書きを推敲しあう。</p> <p>3. 清書する。</p> <p>①下書きをもとに清書する。</p> <p>4. 学習のまとめをする。</p> <p>①清書された新聞を前に掲示し、学びが深く書かれたもの3点を選んで投票する。</p> <p>②選んだ新聞の何がよかったのかを全体で交流する。</p>	<p>○学びを整理させるために、「おくのほそ道」で学んだことを「新聞」のスタイルでまとめさせる。その際、下書きをさせ、班で推敲させる。その後、清書させる。</p> <p>○学びを共有させるために、黒板に新聞を掲示し、学びが深く書かれたものを3点選ばせ投票させる。そして、選んだ新聞の何がよかったのかを全体で交流させる。</p>	<p>書—互いに読み合い、構成や表現の仕方を評価して自分の表現に役立てるとともに、ものの見方や考え方を深めることができる。(新聞)</p>	

## 7 指導の実際

### (1) 本時の手立て（仮説3の場面）

生徒はこれまでに、「月日は」のおおまかな内容をとらえ、作品や歴史的背景を調べ、まとめている。また、芭蕉の「旅」への思いを、本文の言葉を根拠に記述している。そこで本時を、芭蕉の「旅」への思いと「わたしにとって旅とは」の作文を読んで比較させ、古今に共通する思いについて考えるための一時間としたい。この一時間の学習で、今の人にも通じる思いを昔の人ももっていたことに気づかせ、古典を身近なものとしてとらえさせたい。

そのために、「芭蕉の『旅』への思い」をまとめたプリントと、「わたしにとって旅とは」の作文を読ませ、比較させる活動を仕組む。なぜなら、比較させることにより、古今に生きる人たちのものの見方や考え方について、新たな面を見出すことができると思ったからである。したがって、この活動を本時のねらいを達成するための主な手立てとする。

まず導入では、学習の見通しをもたせるために、3の2「学習プラン」を見て、この時間に学習することと評価を確認させる。その後、活動2へと意識づけるために「月日は」を音読させる。展開では、芭蕉の「旅」への思いと現在を生きる私たちとの共通の思いを考えさせるために、「芭蕉の『旅』への思い」をまとめたプリントと「わたしにとって旅とは」の作文を読ませ、比較させる。その後、それぞれの考えを全体で共有させるために、二つを比べてわかったことや考えたことを【共通点】と【相違点】を柱として記述させ、交流させる。

終末では、今日の学びをまとめ、整理させるために、交流後に再構成した自分の考えについて数名の生徒に発表させる。これを学習のまとめとする。

一連の活動を通して、古典に少しでも親しもうとする態度を育みたい。

### (2) 本時の主眼

○現代の人と芭蕉の、「旅」に対する思いを比べて考える活動を通して、古今に共通する思いについて考えたことを記述することができる。（読むこと）

### (3) 準備

- ・「芭蕉の『旅』への思い」をまとめたプリント・「旅」に関するアンケートの結果
- ・「わたしにとって旅とは」の作文

### (4) 展開

学習活動・内容	指導上の留意点	評価	配時
<b>0. ウォーミングアップ</b> <b>【言語の時間】</b> ①フラッシュカード「四字熟語」 ②音読 ③漢字スキル	○学習指導要領「伝統的な言語文化に関する指導事項」に示された内容の定着を図るために、また、脳を活性化し学習への意欲を高めるために、ウォーミングアップを行う。		8  (2) (3) (3)
<b>1. 学習の見通しをもつ</b> ①3の2「学習プラン」を見て、この時間に学習することと評価を確認する。 ②「月日は」を音読する。	○学習の見通しをもたせるために、3の2「学習プラン」を見て、この時間に学習することと評価を確認させる。その後、活動2へと意識づけるために「月日は」を音読させる。		3

めあて 現代の人と芭蕉の、「旅」に対する思いについて考えよう			
<p>2. 現代の人と芭蕉の、「旅」に対する思いについて考える。</p>	<p>○芭蕉の「旅」への思いと現在を生きる私たちとの共通の思いを考えさせるために、「芭蕉の『旅』への思い」をまとめたプリントと前時のまとめ、「わたしにとって旅とは」の作文を読ませ、比較させる。その際、「旅」に関するアンケートの結果もあわせて提示する。</p>		3 3
<p>①前時に学習した「芭蕉の『旅』への思い」と「わたしにとって旅とは」の作文を読む。</p>	<p>○それぞれの考えを全体で共有させるために、二つを比べてわかったことや考えたことを【共通点】と【相違点】を柱として記述させる。その際、交流の際に発表しやすくさせるために、できた生徒は教師にノートを見せに来させる。よい点をほめ、赤ペンで○をつけて返す。また、全体で共有したらよい点があったときには、それを伝える。その後、交流させる。</p>	(9)	(18)
<p>※内容は別添。</p>	<p>○自分の考えを深めさせるために、再度、「芭蕉の『旅』への思い」について考えたことをノートに記述させる。</p>	読①	(6)
<p>②二つを比べてわかったことや考えたことを記述し、交流する。</p>	<p>〈予想される生徒の記述〉 【共通点】 ・旅の前にそわそわすること。 ・今と同じように支度すること。 ・「旅」を人生をとらえている。 【異なる点】 ・家を売って旅に出るところ。 ・命がけの旅であったこと。</p>	<p>③交流後、再度、二つを比べて考えたことをノートに記述する。</p>	<p>3. 学習のまとめをする。 ①交流後に再構成した自分の考えを発表する。</p>
<p>〈予想される生徒の記述〉 ・旅を楽しむという点については、現代の人の方が安全でいいと思った。 ・芭蕉にとって「旅」は人生だと考えている人がいた。「わたしにとって『旅』とは」の作文にも同じことが書かれていて、昔も今も「旅」に対する思いは変わらないのだなと思った。 ・今も昔の人も、「旅の前は嬉しい」のように、同じような感覚をもっていることがわかった。昔の人を少し近い存在に感じた。</p>	<p>○今日の学びをまとめ、整理させるために、交流後に再構成した自分の考えについて数名の生徒に発表させる。</p>		5
<p>まとめ 「旅」をする条件などは現代とは違うが、「旅」に出る前の気持ちや考え方などは、現代の人にも共通している。</p>			
<p>4. 次時の予告を聞く。</p>	<p>○次時は「平泉」を読むことを伝える。</p>		1

8 研究のまとめ

①仮説1・2について

「古典の学習で興味があるものベスト」のアンケートで、一般的な古典の学習を提示し、それに生徒が考えた学習方法を加えたこと、そしてそれをもとに生徒が自ら学習課題を設定し、学習計画を立てたこの手立ては、大変有効であったと考える。

自分たちで学習プランを立てて授業をするのは、  
とても良いことだと思います。  
理由は、とても楽しく計画的に授業をすることができたからです。

①

【資料1】は授業後のアンケートにあった生徒の記述である。75%の生徒が自分たちで学習プランを立てたことに対して「楽しかった」と答えていた。また、理由としては①のように、「計画的にできたから」、②のように「みんなで考えたから」楽しいと感じている生徒が複数いた。

楽しかった、みんなよく考えてプランを立ててくれたので、  
またやりたい。

②

さらに、③や④のように、学習プランの作成が「理解しようと思う気持ち」につながったり、「苦手な部分の克服」につながったりした生徒もいた。以上のことから、生徒の意欲化を図るという点において、有効であったと考える。

楽しかった。  
自分たちでプランを立てると  
理解しようと思う気持ちが増えた。

③

④のように、「苦手な部分の克服」につながったりした生徒もいた。以上のことから、生徒の意欲化を図るという点において、有効であったと考える。

自分たちで学習プランを立てたことで、  
苦手な部分も克服しやすくなりました。

④

【資料1】

②仮説3について

授業の初めに書かせた「わたしにとって旅とは」の作文では、生徒自身が「旅」に対する考えを述べた【資料2】。次に、歴史的背景等の調べ学習を行ったあと、「芭蕉にとって旅とは」をテーマに、考えたことをまとめた【資料3】(次ページ)。それらを比較する手立ては古典に表れた見方・考え方に対し、自分の意見をもつという点において有効であったと考える。

以下、アンケートの結果である。

の	な	る		う	そ	あ	成	め	
だ	ど	た	ど		れ	る	長	の	私
と	ど	め	ん		こ		さ	も	に
私	旅	の	な		そ	新	せ	の	と
は	は	旅	困		が	た	て	で	っ
思	多	、	難			な	く	あ	て
う	種	本	に		旅	も	れ	る	旅
	様	当	も		の	の	る	、	と
	の	自	立		本	き	人	旅	は
	経	分	ち		当	見	に	は	新
	験	を	向		の	て	と	人	た
	の	採	か		意		っ	に	な
	上	し	う		味	新	た	経	自
	で	出	勇		で	た	て	験	分
	成	す	気		あ	な	大	さ	を
	り	た	や		る	知	切	な	見
	た	め	力		と	識	な	せ	出
	つ	の	を		私	を	も		す
	も	旅	っ		は	得	の	人	た
			け		思	る	で	を	

【資料2】

古典の学習が、  
a 前よりも身近に感じるようになった。25%  
b 前よりも少し身近に感じるようになった。68.8%  
c 前と変わらない。6.2%

a と b の生徒を合計すると、「身近に感じるようになった生徒」は 93.8%である。理由として、次のような記述が見られた【資料4-①②】。

今と昔を比べながら授業していくから  
昔の人と今の人の考え方の違いがわかるため。

【資料4-①】



機	置	も	か	な	自	芭	芭
会	く	の	わ	せ	己	蕉	蕉
に	事	だ	か	な	を	に	に
な	で	が	ら	ら	見	と	と
る	自	い	な	ら	つ	つ	つ
か	分	そ	い	旅	め	ア	ア
ら	を	の	ほ	ほ	直	つ	の
で	見	よ	ど	い	す	旅	「
あ	つ	う	不	つ	も	」	旅
る	め	な	安	命	の	と	」
	直	旅	に	を	と	は	と
	す	に	満	落	考	え	は
	い	身	ち	と	え	る	」
	い	を	た	す	る		

【資料3】

昔の人と同じ人間なので、現代の人と同じような気持ち  
をもっていたこと知ったから、

今と昔の人の考えのちがいや、ざっくりと同じ考えを知ることができた。  
古典が少し分かるようになってうれしい。

【資料4-②】

ちょうど半数の生徒がこのような理由を述べていた。自分たちの仲間の「旅」に対する考えと、調べ学習で学んだ芭蕉の「旅」に対する考えを比べることで、古典が遠い存在ではなく、自分たちと共通する部分を多分にもちあわせたものであることに気づいたのではないだろうか。

授業前のアンケートでは78.3%の生徒が「古典の学習はあまり得意ではない・得意ではない」と答えていたが、93.8%の生徒が「古典を身近に感じるようになった」と答えている。以上のことから、自分の考えをもち、古今を比較する活動を通して、本研究で目指す「古典に親しむ態度」が育まれたのではないかと考える。

## 9 成果と今後の課題

### ①成果

- 学習プランを生徒主体で立てさせたことにより、学習意欲を高めることができた。
- 比較する活動を行ったことにより、古典を身近に感じる生徒が増えた。
- 「わたしにとって旅とは」の作文では、仲間の多様なものの見方や考え方を交流させることができた。

### ②今後の課題

- 教師側の「旅」のとらえが甘かった。中学生なので、「江戸時代の人でも現代の人でも、旅に対する思いはあまり変わらない」というレベルで授業が展開されると予測していたが、生徒の読みは思ったよりも深かった。芭蕉にとっての「旅」と江戸時代の人々にとっての「旅」、そして現代の私たちにとっての「旅」は、その質やとらえにおいて違うものであるということに気づいている生徒が複数いた。教師側が、そのような点においてもっと精緻に教材研究をし、整理をすることが必要であった。
- 今回、「比較する活動」が有効だったので今後も取り入れていきたいが、その対象については、より目標に迫らせるという点で有効であるかを吟味して学習計画を立てる必要がある。

### ◎参考文献

- ・中学校学習指導要領解説 国語編（平成20年） 文部科学省
- ・実践国語研究（2012 2/3） 明治図書
- ・国語教育研究（2012 12 NO.488） 日本国語教育学会編
- ・「日本語の力を鍛える『古典』の授業」加藤郁夫著 明治図書
- ・おくのほそ道—現代語訳/曾良随日記付 穎原 退蔵 尾形 侂著 角川ソフィア文庫
- ・まんがとカメラで歩く奥の細道 伊藤章夫 大石好文著 理論社